

講義名	商業施設経営論			授業形態	
担当教員	脇 穂積	開講期・曜日・時間	後期 水曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

商業施設経営論を理解するにあたり、「商業とは何か」「経営とは何か」について検討する。続いて、商業施設に関する歴史の変遷をはじめ、各々の施設概要や課題等を把握する。また特に近年、社会全体のデジタルシフトに伴って注目されてきた「オムニチャネル」という発想、リアルな商業施設とバーチャルなデジタル空間のシームレスな取り組みも検討する。特定の学問分野からだけでなく、実務的経営視点（裏を返せば顧客視点）に立ち、様々な学問分野から今後の商業施設経営に必要不可欠な知識及び発想を学ぶ。

到達目標

・商学 / 商業学、経営学の大まかな概要を理解する
 ・オムニチャネルの概念を理解する
 ・商業施設の歴史の変遷、施設概要、課題を理解する

提出課題

指定論文又は文献を事前に読み込み、講義日程に合わせてレポートを提出してください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各課題に対して提示された疑問点や質問を整理し、講義にて詳細説明いたします。また課題に関して、個別にもコメントし、各自に回答します。

評価の基準

平常点、提出物(論文・レポートなど)、試験、復習課題、中間課題、期末試験の結果から総合的に評価する。
 配分は、平常点：10%、提出物：20%、試験：70%。

履修にあたっての注意・助言他

講義は双方向型の質疑応答形式で進めていきます。積極的な発言を期待します。
 講義中の私語、不必要な携帯電話、メール等は厳禁です。このような行為がある場合、「講義妨害」と見做し、他の履修者の権利を守るため退室してもらうことがありますので注意してください。

教科書

参考図書

.小売DX大全 オムニチャネルの実践と理論.	逸見光次郎、中見真也編著	日経BP	2420	978-4296110902
.商業経営論.	山本 久義	泉文堂	3080	978-4793003394
.1からの流通論 <第2版>.	石原武政・竹村正明編著	碩学舎	2640	978-4502283611

その他

授業計画

1. イントロダクション(授業内容の説明、成績評価他)
2. 商学・商業学・経営学とは
3. 百貨店と総合スーパー
4. 食品スーパーとコンビニエンスストア
5. デイスクラウドストアとSPA(製造小売業)
6. 商店街とショッピングセンター
7. 小売業概論とは何か
8. 小売を支えるロジスティクス
9. インターネット技術と新しい小売業態
10. 小売を支える基盤
11. 流通構造とその変容
12. 商業とまちづくり
12. 小売の動向
13. 小売DX・オムニチャネルの理論
14. 小売DX実践者たちの議論
15. 今後の商業施設経営の展望と課題

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。
 予習・復習等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。
 具体的には、授業前に各回の授業内容について文献やインターネットを検索する等情報収集をしておいてください（2時間）、また授業後に各回の授業内容を復習し、要点をまとめること。疑問点があれば質問できるように記録をしておいてください（2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

特に供給者の現状と課題を理解することが可能となる。
 結果として、社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働きなどに関する専門的知識を取得することが出来、社会における役割や意義を理解し、考えることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義内での意見応答を、学内専任者のRESPONあるいはmicrosoft teamを用いて可視化し、双方向授業実施も行う。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
 実際に商業施設を構築しつつあるプロセスや経営課題について報告しつつ議論を進めていく

備考